



2021年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月12日

上場会社名 株式会社エヌジェイホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 9421 URL https://www.njhd.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 筒井 俊光
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 野澤 創一 TEL 03-5418-8128
 四半期報告書提出予定日 2020年11月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第1四半期の連結業績（2020年7月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第1四半期	2,863	—	57	—	48	—	24	—
2020年6月期第1四半期	3,035	15.3	△5	—	△14	—	△3	—

(注) 包括利益 2021年6月期第1四半期 37百万円 (—%) 2020年6月期第1四半期 △2百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第1四半期	4.61	—
2020年6月期第1四半期	△0.67	—

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載していません。
 2. 2020年6月期は決算期変更に伴い、2019年4月1日から2020年6月30日までの15ヶ月決算となっております。
 3. 決算期変更に伴い、2020年6月期第1四半期（2019年4月1日から2019年6月30日）と2021年6月期第1四半期（2020年7月1日から2020年9月30日）は期間が異なるため、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第1四半期	6,013	3,333	52.9
2020年6月期	6,284	3,349	51.1

(参考) 自己資本 2021年6月期第1四半期 3,184百万円 2020年6月期 3,212百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年6月期	—	—	—	—	—	—
2021年6月期（予想）	—	0.00	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2020年6月期は決算期変更により15ヶ月間の変則決算となっております、中間配当の基準日は第3四半期末の12月31日となっております。

3. 2021年6月期の連結業績予想（2020年7月1日～2021年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	—	400	—	380	—	160	—	30.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2020年6月期は決算期変更により15ヶ月間の変則決算となっておりますので、対前期増減率については記載していません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年6月期1Q	5,350,400株	2020年6月期	5,350,400株
② 期末自己株式数	2021年6月期1Q	57,550株	2020年6月期	57,550株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年6月期1Q	5,292,850株	2020年6月期1Q	5,292,850株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算説明資料は、2020年11月12日(木)に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な流行により、依然として厳しい状態にあり、海外経済についても大きく落ち込んだ状態にあるものの、各種政策の効果や経済活動の再開が進められるなかで、持ち直しの動きが見られております。

ゲーム業界におきましては、巣ごもり需要によりオンラインコンテンツの利用が伸びるなか、ゲーム市場は総じて拡大の傾向が見られております。スマホゲーム市場での既存上位タイトルの長寿傾向が続くとともに、コンシューマー市場ではシリーズタイトルなどを中心に多くの新たなヒットが生まれており、各種ゲーム専用機の販売も好調であります。また、次世代ゲーム機が発表されるなど、対応新規タイトルの発売とともに新たな盛り上がりが見込まれております。

モバイル業界におきましては、端末購入需要の春商戦期からのずれ込みや新たな中価格帯端末の発売により出荷台数の回復が見られたものの、携帯電話各社による新プランの検討や新型iPhoneの発売を控えた様子見により再び低調な出荷水準となりました。

このような事業環境のなか、当社は、ゲーム事業におきましては、長期化するコロナ禍で新たな働き方への適応に取り組むとともに、開発及び運営体制を維持すべく仕事環境の改善やコミュニケーション総量の減少に伴うリスク対処等に取り組んでまいりました。モバイル事業におきましては、春商戦期からずれ込んだ買い替え需要の取り込みをめるとともに、中価格帯端末の訴求や格安SIMの販売促進に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績につきましては、以下のとおりです。

なお、前連結会計年度（2020年6月期）は決算期変更により2019年4月1日から2020年6月30日までの15ヶ月決算となっております。これに伴い、前第1四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日）と当第1四半期連結累計期間（2020年7月1日から2020年9月30日）は期間が異なるため、前年同四半期との増減比較については記載しておりません。

売上高は、ゲーム事業においては、受注済み案件を中心に概ね堅調に推移いたしました。モバイル事業においては、昨年の改正電気通信事業法の施行以降、販売店部門において購買における端末価格感度が高く、端末販売を伴わないSIM販売の比率が増えた結果、仕入原価の減少に合わせ売上高も減少いたしました。この結果、売上高は、2,863百万円となりました。

営業利益及び経常利益は、ゲーム事業においては、受注済み案件を中心に、新規案件の獲得にも努め、人員稼働率の維持に取り組まれました。モバイル事業においては、3G停波に伴う買い替え需要の取り込みや、中価格帯端末及びSIM販売を強化するとともに、販管費の抑制に取り組むことで、利益の確保に努めました。

この結果、営業利益は、57百万円となり、経常利益は、48百万円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、24百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① ゲーム事業

当セグメントにおきましては、(株)ゲームスタジオ、(株)トライエース、(株)ウィットワン、(株)ウィットワン沖縄及び(株)テックフラッグにてゲームの開発受託及び運営受託等を行っております。

売上高については、受注済み案件を中心に概ね堅調に推移した結果、2,276百万円となりました。

セグメント利益（営業利益）については、受注済み案件を中心に、新規案件の獲得にも努め、人員稼働率の維持に取り組んだ結果、139百万円となりました。

② モバイル事業

当セグメントにおきましては、(株)ネプロクリエイトにてauショップ等のキャリアショップ及び複数の通信事業者の端末・サービスを取り扱う販売店PiPoPark(ピポパーク)を運営しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、売上高については、昨年の改正電気通信事業法の施行以降、販売店部門において購買における端末価格感度が高く、端末販売を伴わないSIM販売の比率が増えていることから、571百万円となりました。

セグメント利益（営業利益）については、3G停波に伴う買い替え需要の取り込みや、中価格帯端末及びSIM販売を強化するとともに、販管費の抑制に取り組むことで、利益の確保に努めた結果、8百万円となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、クレジット決済事業等を行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、売上高については、17百万円となりました。セグメント利益（営業利益）については、2百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間の総資産は6,013百万円となり、前連結会計年度末と比べ270百万円の減少となりました。主な要因は、売掛金115百万円の減少、のれん37百万円の減少、仕掛品32百万円の減少等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間の負債は2,680百万円となり、前連結会計年度末と比べ255百万円の減少となりました。主な要因は、長期借入金86百万円の減少、買掛金65百万円の減少、短期借入金50百万円の減少等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間の純資産は3,333百万円となり、前連結会計年度末と比べ15百万円の減少となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益24百万円、配当金支払52百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきまして、ゲーム事業においては、コロナ禍にて体制構築の難易度がより高まるなか、個々の生産性の維持だけでなく、プロジェクトチームとしてのアウトプットの質と機動的な対応力を維持するための取り組みが課題となっておりますが、開発ペースや品質を維持すべく、体制要件に応じていくとともに、新規案件の受注を強化してまいります。モバイル事業においては、スペックとコストパフォーマンスを備えた端末が充実し始めるなか、販売店部門の特徴である豊富なラインアップと利用者ニーズに合わせたコンサルティング力により、販売チャネルとしての価値を高めてまいります。

当連結会計年度（2021年6月期）における通期の業績見通しにつきましては、2020年8月13日発表の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,610,404	1,614,952
売掛金	1,395,626	1,279,900
商品	169,023	145,445
仕掛品	224,402	192,289
貯蔵品	1,045	730
その他	281,368	262,085
貸倒引当金	△49,045	△49,045
流動資産合計	3,632,825	3,446,357
固定資産		
有形固定資産	244,563	253,204
無形固定資産		
のれん	982,381	945,341
その他	246,586	221,502
無形固定資産合計	1,228,967	1,166,843
投資その他の資産		
差入保証金	886,665	886,823
その他	311,850	280,628
貸倒引当金	△20,010	△19,932
投資その他の資産合計	1,178,505	1,147,519
固定資産合計	2,652,037	2,567,568
資産合計	6,284,863	6,013,925
負債の部		
流動負債		
買掛金	538,367	473,331
短期借入金	350,000	300,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	347,576	347,596
未払法人税等	9,017	14,480
賞与引当金	66,087	28,752
その他の引当金	8,933	62
その他	534,859	544,902
流動負債合計	1,894,840	1,749,125
固定負債		
社債	140,000	120,000
長期借入金	710,662	623,748
退職給付に係る負債	109,481	112,426
その他	80,506	74,758
固定負債合計	1,040,650	930,933
負債合計	2,935,491	2,680,059

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,845	592,845
資本剰余金	350,290	350,290
利益剰余金	2,328,518	2,300,121
自己株式	△59,111	△59,111
株主資本合計	3,212,542	3,184,145
新株予約権	34	34
非支配株主持分	136,795	149,685
純資産合計	3,349,372	3,333,866
負債純資産合計	6,284,863	6,013,925

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
売上高	3,035,056	2,863,687
売上原価	2,495,336	2,301,989
売上総利益	539,720	561,697
販売費及び一般管理費	544,829	503,938
営業利益又は営業損失(△)	△5,109	57,758
営業外収益		
受取利息	58	56
持分法による投資利益	—	1,630
不動産賃貸料	5,566	2,898
助成金収入	—	1,629
その他	622	1,291
営業外収益合計	6,247	7,506
営業外費用		
支払利息	7,622	3,324
支払手数料	—	5,289
持分法による投資損失	3,841	—
不動産賃貸原価	3,652	1,537
その他	269	6,690
営業外費用合計	15,385	16,842
経常利益又は経常損失(△)	△14,247	48,423
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△14,247	48,423
法人税等	△12,051	11,137
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,196	37,285
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,375	12,890
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,571	24,394

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,196	37,285
四半期包括利益	△2,196	37,285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,571	24,394
非支配株主に係る四半期包括利益	1,375	12,890

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間
(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

当四半期連結財務諸表の作成にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響が当面の間継続するものと仮定し、会計上の見積りを検討しておりますが、現時点において当社グループへ重要な影響を与えるものではないと判断しております。ただし、今後の状況の変化により、当四半期連結累計期間以降に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,051,458	961,151	3,012,610	22,446	3,035,056
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	126	126	611	738
計	2,051,458	961,278	3,012,736	23,058	3,035,795
セグメント利益	70,705	12,835	83,540	5,550	89,091

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありま
す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	83,540
「その他」の区分の利益	5,550
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△37,040
全社費用(注)	△57,160
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△5,109

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ゲーム事業	モバイル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,275,339	571,330	2,846,670	17,016	2,863,687
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,650	506	2,156	92	2,249
計	2,276,989	571,837	2,848,827	17,109	2,865,936
セグメント利益	139,259	8,555	147,814	2,979	150,794

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジット決済事業等でありま
す。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	147,814
「その他」の区分の利益	2,979
セグメント間取引消去	—
のれん償却額	△37,040
全社費用(注)	△55,995
四半期連結損益計算書の営業利益	57,758

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。